

パブコメ集計結果(ポストドクター等の参画による研究支援体制の強化)

1. 総数: 64件

2. 賛否について:

○賛成:	47件
○賛成だが施策の改善見直しの意見を含むもの:	12件
○反対:	5件
計	64件

(賛否の考え方)

- ・主旨に賛成の文意を含むものは全て賛成に判定。
- ・「賛成だが施策の改善見直しの意見のあるもの」は基本的には賛成だが、施策の実施にあたっての改善、見直し方策について記述されているものを集計。

(参考)

①賛成

- ・ポストドクのキャリアパスの多様化が目的の支援システムとして評価したい。
- ・研究者が研究に専念できる環境整備と研究者の様々な職種への登用が可能となり、ポストドクの雇用確保と多様なキャリアパスの創出にも繋がる。
- ・高度な教育を受けたポストドクは専門性が高いので、適切な支援により社会にとって価値のある労働力となり得る。研究の受け入れ先が不足している現状は、社会にとって損失。

②賛成だが施策の改善見直しの意見を含むもの

- ・現在の大学や研究機関等において、リサーチ・アドミニストレーターや高度技術専門人材の位置付けが不明確なままでは、一時的なポストドクター等の受け皿になっても、その後のキャリアパスが不明確な期間を伸ばすだけ。位置付けを明確にした上で、広く人材を求め、専門性を備えた人材を養成することが重要。
- ・一時的な支援であれば、結局不安定さは変わらない。
- ・必ずしも博士号取得者である必要は無く、修士号以上でよい。
- ・最大の問題はポストドクターの雇用問題である。

③反対

- ・任期付きで雇用されても社会へ出る機会をなくさせるだけ。安易な「延命措置」により、これ以上「漂う博士」や「ワーキングプア」を作るべきではない。
- ・一般に数年契約で雇用されているポストドクとの待遇面(雇用期間)における違いが不明で、身分が不安定な数年契約であれば高度技術専門人材として育成するのは困難。
- ・いわゆるポストドク対策。そもそも何故博士号取得者が過剰な状態になるのか。進学の各段階でもっと数を絞るべき。